

2016年7月22日(金)～24日(日)

金峰山・瑞牆山
三日目：瑞牆山登頂

Report by Yosimatu

日が明るくなる頃は霧雨模様であったが、それも徐々におさまってきて、皆が起きだす時刻には霧雨も止んできた。晴天とは言えないが、まだ梅雨明け宣言が出ていないこの時期にしては上々のコンディションというべきか。昨日突然参加の田形さんを交えて、今日も10名で瑞牆山にチャレンジすることになった。



5時50分、食堂に集まってテーブルに着いた。
ハムと卵焼きがおかずの美味しいご飯だ。



6時半には全員準備を済ませて、瑞牆山荘をバックに全員の雄姿を写真に収めた。

今回の登山行ではあまり沢山の花には巡り合わなかったが、山荘近くで3種の花を写真に収めた。





予定通り 6時40分には行動開始。
富士見平までは、昨日金峰山からの下山時に通った登山道を登り返す形になる。



暫く歩くと登りも少しきつくなってきた。金峰山も瑞牆山も主に花崗岩で出来上がった岩山だ。大きな岩が登山道にゴロゴロしている。



林道と登山道が交差するところまで来た。登っている道は「里宮神社」の参道でもある。



我々は通り過ぎてしまったが、登山道を離れて参道へ入ると巨岩に守られた社があるのだそう。由緒書によれば、祭神は「金剛蔵王権現」。山に山籠る村人の安全と、五穀豊穰を願って祀られているとのことである。

(写真はネットから借用)



30分ほど歩いたところで小休止。給水をして、少し上着も脱いだ。この場所から、多少靄が掛かっていたが、瑞牆山の頂辺りの切り立った岩山が望めた。



休憩所から15分程も登ると富士見平の空が開けた辺りに近付いてきた。



7時24分、富士見平到着。もともと余裕をもった熊本リーダーの計画ではあったが、予定よりも15分程早く登ってくる事が出来た。約10分間の大休止で身体を休めた。



富士見平からは、飯盛山（2116m）の山裾を左に巻き込むようにして歩き、やがて天鳥川（あまとりがわ）の源流近くまで下って行く行程となる。



7時34分、大休止の後富士見平を後にした。



飯盛山山裾を巻き込むようにして進んだ。元々日の差し込みにくい場所らしく、山肌や古木には苔がびっしりとついている。足元の石にも苔や泥が多くついていて、滑らないように気を付けて歩いた。



20分も歩いたところから沢音が心地よく聞こえてきた。
この辺りから道は急な下りになってきた。



8時過ぎ、天鳥川（天鳥川出合 1790m）に降りてきた。川の源流に近いため川幅は一跨ぎほどのものだ。



天鳥川河原の上辺りで小休止。沢の音が聞こえてきて身体が休まる。
ここから山頂までは、花崗岩の岩をよじ登って行くことになるので、ここは最後の広々とした休憩所だ。



8時8分、いざ岩山に向かって出発だ。早速目の前に縦に大きく割れ目が入った大岩が現れてきた。「桃太郎岩」と呼ばれる奇岩だ。



我々は、桃太郎岩の横目に見ながら設置してある梯子を登った。



今度はすぐに、鎖場を登ることになった。



鎖場を過ぎると、また階段。中々ホッとする暇もない。(閑話休題；湿った木に珍しいキノコが付いていた。)



暫くは、急登と岩を相手に格闘しながら登って行くことになった。高度が高くなるにつれてシャクナゲの木が目立ってきた。



8時54分、ハクサンシャクナゲの白く可憐な花に出会うことが出来た。

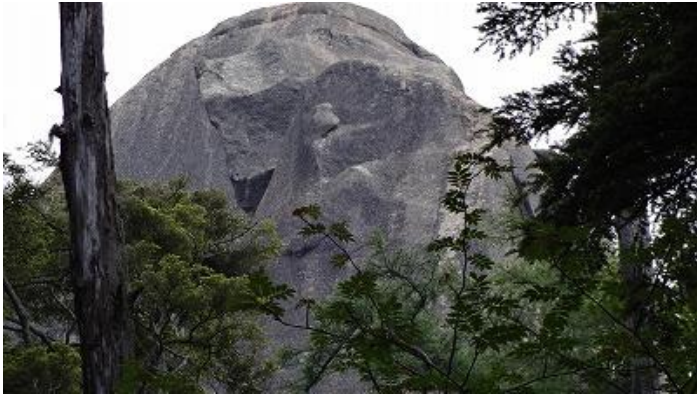
既に満開の時期は過ぎていて、花の数は僅かではあったが、小ぶりで仄かに紅をさした花弁が我々を楽しませてくれた。



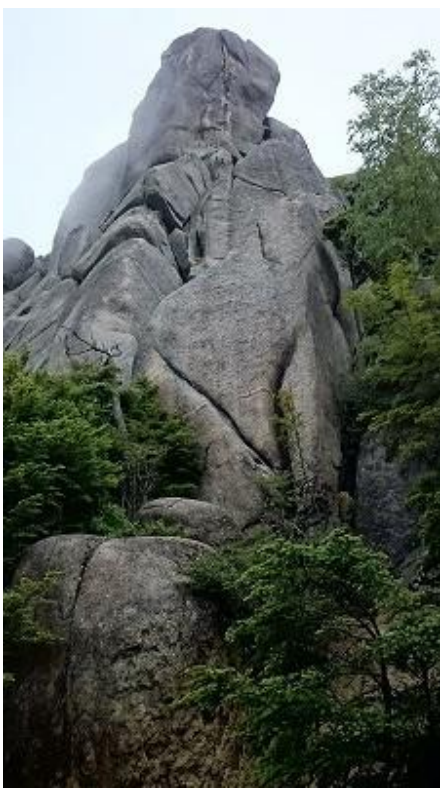
そして更に登ると、樹林の間から昨日登った金峰山山頂とその隣の独特な形をした五丈岩が見えてきた。

金峰山は瑞牆山よりも369mも高いから、グッと見上げる感じだ。

今度は目の前に入道のような大きな岩が現れてきた。この岩を巻くように進んでいく。時には岩と岩との隙間を通りぬけなければならないところもある。背の高い人、お尻の大きい人には結構厄介だ。



水あめを上からたらしたような奇岩もある。足場の悪い登りが続いて苦戦している川島さんも、ここは気を取り戻してVサインで写真に納まった。



頂上までは更に30分ほどの難所が続いた。鎖場あり、倒木の枝を頼りに登らなければならないところありで、みんなの息も否応なく上がってくる。



山頂まであと10分。最後の鎖場に来た。力任せに登ると良いのだが、腕力に自信が無いとちょっと厄介だ。

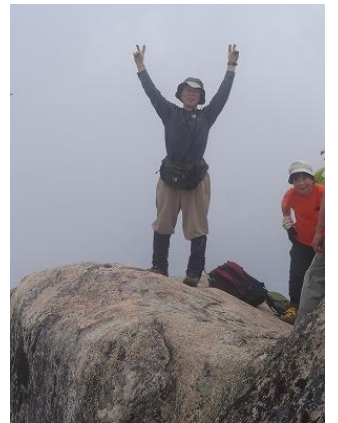


今日の登山では、田形さんが川島さんにピッタリついて、何かとアドバイスをしてくれていた。
田形さんの川島さんを見つめる視線はすっかり個人指導者のそれになっている。



10時、遂に山頂到着だ！
計画よりも30分ほど早く着くことが出来た。

以下、登頂感激のポーズ7態。(文ちゃん、モモちゃん、写真なくて御免なさい。吉松も御免なさい。)

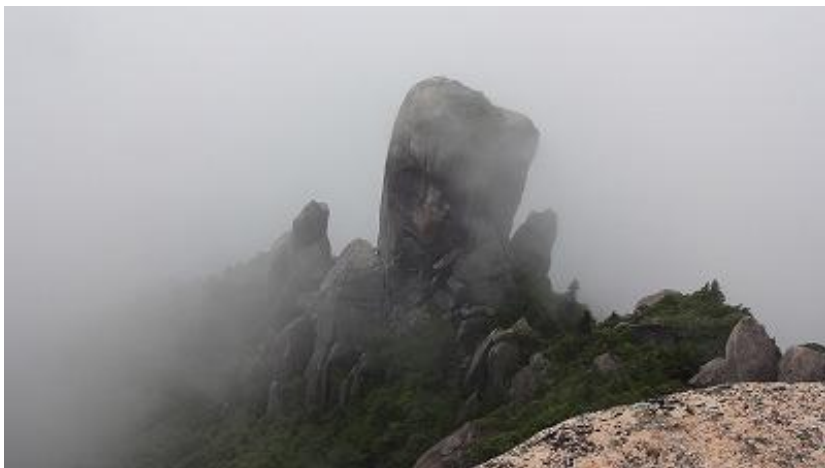


かくして、全員無事瑞牆山（2230m）に立つことが出来た。特別リクエストにより、頑張った女性だけの集合写真も1枚パチリ。





少し時刻は早いですが、山荘で持たせてくれたおにぎり弁当を食べることにした。



霧が掛かっている残念ながら眺望を楽しむことが出来なかったが、時々霧が流れてロウソク岩が姿を現した。一步踏みはずすと奈落の底だから、撮影も慎重だ。



山頂での食事の一時はいつも楽しい。

例によって、田形さんは良く食べる。瑞牆山山頂では殊の外、皆さん元気が良く、食後のパフォーマンスも、なかなか多種多芸であった。





食事も終わり、パフォーマンスも終わってホッと一息。



10時30分。
名残り惜しいが下山開始。無事に瑞牆山荘まで下って初めて登山終了だ。

登りのグループとの渋滞も余り無く、順調に下って桃太郎岩を過ぎた辺りの天鳥川出会で大休止。



ここで、「少し調子を上げ歩かないと、瑞牆山荘で生ビールが飲めないぞ！」との熊本リーダーから鞭が入った。馬には鼻先ニンジンが効くようだが、人間にも「鼻先生ビール」が良く効くとは知らなかった。この一鞭により、天鳥川を越えて飯盛山山裾を回り、12時30分には富士見平に到着した。生ビールを飲む時間がしっかり確保された。



富士見平で大休止の後、今回の登山行で最後の下山道を瑞牆山荘に向けて下った。

30分で一気に小屋まで。山荘が用意したバケツの水で靴の泥を落とし、待ち切れずに食堂で生ビールの注文。



瑞牆山登頂と無事下山を祝って、乾杯！
*ビール好きの中島さんが入っていないので、彼女の名誉のために以下の写真も掲載。



人心地がついたところで、女性陣は田形さんの車で一足先にラジューム温泉「増富の湯」へ。男性陣は少し遅れて、14時25分発のバスで増富の湯へ向かった。



源泉かけ流しの増富ラジューム温泉は、結構なものでした。時間の関係でビールが飲めなかったのが、一寸残念





「増富の湯」前で最後の集合写真を一枚（撮影中の雄さんは止むをえないとしても、堀さんはどこに消えたかものか?）

車で参加の田形さんとはここでお別れとなった。彼女は7月28日からマッターホルンにチャレンジしてくるになっている。帰朝報告が楽しみだ。

田形さんと別れ、15時47分発の韮崎駅行きの定期バス（山梨峡北交通）に乗る計画であった。

・・・が、話せば長い一寸した手続きの関係で、男性陣は定期バスに、女性陣3名は同ルートで韮崎駅まで行く団体客用の臨時バスに乗り込むことになった。

そして、到着予定時刻の16時45分に韮崎駅で再び合流し、その8分後の16時53分韮崎駅発「あずさ26号新宿行き」に皆で乗車するはずであった。

（写真左；定期バス、写真右 団体客用の臨時バス）



ところが、ことはそのようには運ばなかった。少々、読みが甘かった。

定期バスは当然ながらあちこちのバス停に止まりながら運行している。元々「増富の湯」の出発が5分ほど遅れていたのだが、日曜日とあっていつもよりバス停での乗客が多く立ち席まで出る始末で、益々バスが遅れがちになってきた。駅に近づくに従って信号待ちの車も増えてきた。バスと列車の乗り換え時間は8分しかないのだ。男子陣はイライラするが、どうにもならない。

女性陣が乗った臨時バスは、定期バスのようなことは無く韮崎駅まで順調だったらしい。

男性陣は、それでも諦めずに最後まで淡い期待を持っていた。しかし遂に、バスの中から韮崎駅に入線する「あずさ26号」が見えた。そして16時53分定刻通り、布目さん、川島さん、中島さんの3名を乗せて列車は出て行ってしまった。万事休すだ！！

*番外編その1

予定の列車が出て行ったあとにトボトボと蕪崎駅に行き、結局18時23分発の「あずさ30号千葉行」まで待つしかないことが分かった。気のきいた飲み屋もなく、仕様が無いから駅近くの「魚民」で飲むことにした。



話が決まれば後は早い。

- ・早い時間のアワーセット 6人前
(生ビール、おつまみ付き)
- ・シザーサラダ2皿
- ・イカの一晩干し1皿
- ・芋焼酎「黒霧島」ボトル1本
- ・お湯(1L)2ポット

メて、9、793円

ガンガン、やりました。



「あずさ30号」は思いのほか空いていて、皆近い所で席が取れ、結局そのまま「魚民」の続き。

熊本さんが車内販売で「真澄」のワンカップを仕込んできて、益々宴たけなわとなりました。



*番外編その2

山から帰った翌日、堀さんからこんなメールが全員に入りました。

「蕪崎の魚民にカメラを無くした。やっちゃいました。店に問い合わせたが、無いようである。ここに忘れたのは間違い無いのですが・・・。ついては、30デイズには写真掲載が出来ない。」

このメールに対して、熊本さんからの返信メール。

「またまたやっちゃいましたか。本領発揮ですね。ところで、忘れたのは「あずさ30号」の中ではないですか。蕪崎駅ホームの写真を良く見て下さい。堀さんの手首にぶら下がっているのは、カメラではありませんか。」



(ホームの堀さんの右手首には、カメラがぶらぶら)

堀さんからの返信メール

「JR忘れ物センターに問い合わせたところ、千葉駅に保管されていました。熊本さんの写真のお陰です。」

何も無いようで、今回も色々あったクマさん会登山でした。田形さんの特別参加もありました。有難うございました。

20周年企画として計画されましたが、お陰で一遍に百名山2座も踏破する登山になりました。記念に残る素晴らしい登山でした。